

53 ツルシギ

(チドリ目)

兵庫県ランク:B

Tringa erythropus

繁殖個体群:無 越冬個体群:無 通過個体群:B

環境省ランク:VU(絶滅危惧Ⅱ類)

種の概要

北海道、沖縄では旅鳥、本州、四国、九州では旅鳥または冬鳥。兵庫県では主に3-5月と9-11月に見られる。海岸近くの湿地や沼沢地、水田、ハス田などに生息することが多い。昆虫類やタニシなどの貝類、エビなどの甲殻類を採食する。



写真提供:松重和太

国内分布

北海道、南千島、本州、粟島、佐渡、隠岐、見島、四国、九州、対馬、屋久島、伊豆諸島、小笠原群島、トカラ列島、奄美諸島、琉球諸島、大東諸島

県内分布 ()表記の市町では2002年以前に生息確認

神戸市、(姫路市)、(尼崎市)、明石市、(西宮市)、(伊丹市)、豊岡市、(赤穂市)、(南あわじ市)、(加東市)、稲美町、播磨町



主要な選定理由

影響の人為性				生態の脆弱性 (特殊性)			学術上の希少性		
個体数激減	分布域激減	餌の可用性の低下	特殊競争圧	特殊捕食圧	特殊繁殖環境	特殊採餌環境	ね特殊休息環境・	局地的繁殖	希少

県内における生息状況およびその他特記事項

新規追加種。
かつては県南部で春には10数羽から数10羽の群れが普通に渡来していた。1967年4月には加古川市尾上で383羽の記録がある。近年は埋め立てにより生息環境が消失し、2-数羽が記録されるのみである。県北部でも記録されている。

保護上の留意点

生物の多様性を守ることを目的とした定期的な池干しなどによるため池の維持管理が重要。草を刈り、水を入れる休耕田があるが、この鳥には貴重な採餌場となっている。



写真提供:但馬野鳥の会